

*No Nuclear Power Plant  
In Our Community*

*Iwaishima*

*Wants*

*A life of Health and Sustainability*



## 私たちの町に原発はいらない 祝島は原発いらん！原発No！

日本にある小さな平和な町、上関に原子力発電所の建設計画が最初に起こったのは 1982 年でした。瀬戸内海の南東に位置する上関は、1934 年に最初の国立公園のうちのひとつとして指定されました。しかしその風光明媚な地域にもかかわらず、町は突然そののどかな自然の美しさを永久に脅かす開発の予定地になったのです。



年が経つとともに上関は次第に過疎化していき、現在の人口は 3700 人になりました。原発誘致計画は、この小さな平和な町に地域の分断をもたらしました。住民のなかには地域活性化のためにこの計画を受け入れる以外に選択はないと思った者もいました。しかし、原発建設予定地からわずか 4 km に位置する祝島の人たちは断固としてそれを拒否しました。経済活性化や助成金の甘い話には目もくれず、祝島の人たちはこの原発は必要ないと明言しました。



**日本のエネルギー政策** 近年は火力発電・水力発電から原子力発電へと徐々に推移してきました。この政策は電力会社が原発推進を進めることを後押ししてきました。しかし、これまで電力会社は安全だと言いながら、放射能や核の廃棄物ほか様々な環境破壊などによって起こる問題に対して充分に対処できないことをたびたび証明してきました。これらの深刻な問題や危険性について適切な説明がなされていないにもかかわらず、政府や電力会社は原子力エネルギーに頼った政策を続けています。その目的は単に経済的な問題なのです。原子力エネルギーによる経済的な利潤追求は、計り知れない人や環境の価値に対する不安を常に拡大してきました。

## 田ノ浦の貴重な環境

原発建設予定地は田ノ浦というところですが。この近辺は、鳥、魚、貝などの多くのさまざまな海洋生物を含む動植物の自然の体系が残っています。また、この地域はスナメリやウミスズメのような絶滅危惧種が生息する環境でもあるのです。スナメリとは最も小さい鯨として知られています。今年の 5 月に数羽のカンムリウミスズメの子どもがこの近辺で見られましたが、その後の調査で、もっと多くのカンムリウミスズメが確認されています。その生息地が同地域に確認される可能性が期待されています。

このように、この地域は様々な自然界の生態系にとって重要な場所であることは明らかであるのに、その環境調査は公明正大に透明性のある適切な形で行われませんでした。実際にこの調査を遂行した機関は、まさに開発しようとしている、つまり明らかに利害関係のある電力会社によって雇われているのです。

国は、環境を破壊する開発をするのではなく、貴重な環境を守るべきだと思います。



## 素晴らしい自然の祝島

1982 年以来、祝島の人たちは、原子力発電所の建設に反対するねばり強い運動を続けてきました。祝島は田ノ浦の僅か 4 km のところにあります。そこは自然の美しい島で、500 人の人々は何代にもわたって伝統的で持続的な農業や漁業による営みを続けています。しかし、原発建設が進むとこのような生活は破壊されてしまいます。この地域の生態系は妨げられ、おそらく取り返しがつかないことになり、この地域に住む人たちは新鮮な魚や豊かな農作物にたよる生活ができなくなります。国や電力会社は原発計画受け入れによる莫大な補償金を提示してきましたが、祝島の人々はこれまでの自然に根づいた生活を発展させながら生きていくことを一貫して訴えてきました。祝島の人々は、たとえ経済的に豊かになろうとも同時に環境が壊れていくような生活を拒んでいます。



また祝島には 886 年の平安時代以来ずっと続いている「神舞」という祭りがあることにもふれておかなければなりません。祝島の人々は、この歴史的文化的な遺産を 1100 年以上も続

けてきたことを誇りに思っています。島の人たちは原発建設に伴う自然環境・生活環境の破壊を受け入れて得る一時的な金銭的利益よりも、島の美しい自然環境と共にこの伝統的文化的な遺産を、次世代に残すことを選択したのです。

**2008年10月22日に、この反対運動に深刻な変化がありました。**

二井関成山口県知事は、電力会社に原発建設予定地の海域を埋め立てる許可を出しました。電力会社は、この原発建設計画の準備段階として埋め立てを開始することをずっと待ち望んでいました。知事は、この決断を島民の要望に反して適切な協議もなく断行しました。この開発に関するいくつかの係争中の訴訟があるにもかかわらず、電力会社は知事の決断を受けてこの計画を進めることを明言しました。

私たちは、この環境や地域社会に計り知れない打撃をもたらすであろう原発建設計画を中止して、祝島のこれまで続いてきた自然に根ざした生活を維持し続けていきたいと思っています。

### 原発計画内容と祝島の紹介

* 建設計画	1号機	2号機
出力	1373000Kw	1373000kw
建設開始	2010年	2013年
稼働開始	2015年	2018年

\* 祝島の人口：522人（2008年10月現在）

\* 農・海産物：びわ、びわ茶、鯛、メバル、タコ、てんぐさ・ひじき・わかめなどの海草、他

\* 見どころ：石塀（練り塀）、桜、コッコウ（不老長寿の伝説のある果実）

行者堂（役小角が祀られた小さな社）、他



写真提供：長島の自然を守る会、祝島島民有志

斜体字は学名および日本語

上関原発を建てさせない祝島島民の会

FAX:0820-66-2110 E-mail: [iwaishima@gmail.com](mailto:iwaishima@gmail.com) <http://shimabito.net/>